

医療法人 福生会 斎藤労災病院

日本医療機能評価機構認定病院

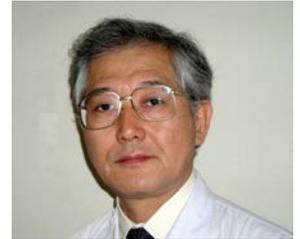
人間ドック・健診施設機能評価認定病院

労働衛生サービス機能評価機構認定病院

労災二次健康診断等給付指定医療機関

まごころ

より良い環境と迅速な対応を目指して



院長 寺林 秀隆

新年明けましておめでとうございます。皆様方には新しい年をお健やかに迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、皆様には日頃から当院の診療、健診などの諸活動に對しまして、ご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、健康診断事業も含めた医療環境はめまぐるしく変化し、多くの対応がすぐに実施することを求められている現状であります。その様な環境の中、昨年健康診断部門では受診者数並びに新規契約事業所数も増加し、大変感謝いたしております。今年4月には特定健康診断・保健指導の導入となり、当院といたしましても事業所の皆様のご要望に迅速に対応出来るようソフト・ハード両面のシステムづくりを行っております。また来院健診の方も増加しておりより多くの方に対応できるように環境面も整えております。診療では泌尿器外来を週1回ではありますが新設し提供できるサービスの範囲を広げました。

環境面では介護療養病床の病床面積を増やしたり、ナースコールを全館PHS対応とし、より多くの患者様により良い環境で安全で迅速な対応をという当院の姿勢をお伝えする事ができました。

精度管理の面では、平成19年6月に健診に関連し労働衛生サービス機能評価機構の再認定評価を頂き、今年には日本医療機能評価機構の再認定を得るべく準備中であります。

今年もより地域のニーズに合わせた診療体系の構築、幅広い健診活動、より高い質を求めて精度管理の充実に力点を置き活動して参るつもりです。職員一同全力で皆様のご要望にお答えすべく頑張っております。どうぞ宜しくお願い致します。

ご支援頂いております患者さん、受診者の皆様並びに医療機関や各事業所、関係各位の皆様方のご多幸と益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

目次:

	PAGE
院長よりご挨拶	1
医療安全強化週間の取り組み	2
内部委員会について	2
院内の環境改善について	3
部署紹介 ~放射線科~	3
シリーズ診療 Q&A	4



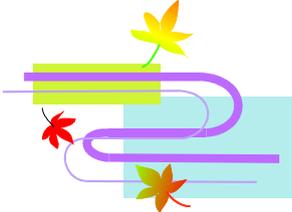
病棟の飾り付けより



高気圧酸素治療室(9人用の大型チャンパー写真左)

医療安全強化週間について

医療安全強化週間



期間：平成19年11月19日(月)～
11月25日(日)

今年度も当院では医療安全に対する意識向上を目的に医療安全強化週間を設定しました。

この活動は組織的に医療安全に取り組む事で職員一人一人に病院全体の安全文化を浸透させる事を目的としています。ポスターの掲示(左)や各部署の安全リーダーが中心となった活動により職員全員の安全に対する意識を高める事が出来ました。

活動内容紹介

一般病棟では病棟に掲げてある「いつでも患者確認、目で確認、手も目も抜いてはいけない」という言葉を全員で言葉

に出して言いました。高気圧酸素治療科では治療を受ける方に対して「耳抜き」等の説明を実際にスタッフが行いお見せしました。栄養科では期間中毎日小さな目標を立て、徹底を図るように取り組みました。等々、細かい配慮の積重ねが医療事故防止につながる事になると思っています。常に周囲に気を配りいつもと違う点があれば素早く気づく反応の良さも養っておく必要があります。

当院では職員全員が安全に対する意識を共有しています。

以下に当院の医療安全についての取り組みの一部をご紹介します。



医療安全全体研修会の様子
平成19年12月11日



安全な医療への取り組みについて

1. 医療安全管理会議

医療事故防止対策委員会、院内感染防止対策委員会、他6つの院内委員会が検討した内容を収集・分析しています。この会議で院内の「安全」に関する課題が集約され対策を決定しています。

2. リスクマネージャーの配置

各部署にリスクマネージャーを置き、

日常業務内での安全管理を行っています。上記医療安全強化週間の中心メンバーです。(部署内をチェックしています。)

3. 事故調査・分析・対策

業務中「ヒヤリ」としたり「ハツ」とした事例を集めています。PDCAレポートとして各部署から事務局へ集められ、分析と再発防止の検討が行われます。

当院の委員会活動について



当院には22の内部委員会があります。それぞれの委員会は共催も含め活発に活動しており、業務改善や内部統制のための役割を果たしています。病院の職員は専門職が多く、日常業務はそれぞれの専門分野で働いています。皆様もご存知の通り、現在の医療はチーム医療(医療スタッフがチームとなって患者さんを診ていく)が主流です。当院をより良い病院に成長

させる為に、様々な角度から意見交換の場を設け、お互いに専門分野の知識、意見を出し合って診療に当たっています。各部署長を中心とした会議は診療がひと段落する昼や夕方に連日行われています。会議で課題、問題点が浮かび上がるという事は改善できる事があるという事です。当院では一件一件検討していく姿勢を大切にしていきたいと考えています。

院内環境の改善について

介護療養病棟の環境改善の為、病室(3室)を増設いたしました。これにより介護療養病棟は5床室が全室4床室になり広い病室で療養していただける様に環境を整備致しました。(右写真)

また、ナースコールを全館PHS対応いたしました。これまでは看護師がナースコールが鳴るとナースステーションに戻り病室の患者さんと話をしていましたが、今回の変更工事で看護師の持つPHSで直接会話をする事が可能となりました。これにより入院患者さ

んをお待たせせず対応(処置)が出来ます。

選ばれる病院を目指し、患者さんの動線を考えて受診しやすい環境を整えるために、外来処置室・検査室・給食配膳室・薬剤科の拡充、医局の移設等、院内環境を大幅にリニューアルいたしました。

今後も当院は常に改善意識を持ち診療を続けてまいります。院内には意見箱(4ヶ所)がございますので、お気づきの点はどうぞお申し付け下さい。



職員食堂を病室に



病室の仕切りを入れる



快適な病室が生まれました



廊下幅も広く、車椅子の移動もスムーズに

季節感ある病棟づくり

当院の各病棟では季節に応じて様々な飾りつけを職員が行っています。毎月各部署長が集まる診療会議でその月の職場環境の優秀部署が発表されます。

最近では飾りつけを行うスタッフの中にもプロ顔負けの腕前を持つ者も登場し、そのセンスを磨いています。

介護病棟のケアワーカーは「飾り付け

をしているとついついこだわりが出てきます。患者さんやご家族に『綺麗だね』と言われるのが何よりも嬉しいです。明るい病棟づくりによって患者さんの心が少しでも和めば」と次の飾りつけの構想を練っています。



部署紹介 苦痛のない撮影を～放射線科～

放射線科は現在、7人の診療放射線技師でレントゲン撮影、バリウム検査、マンモグラフィ、CT撮影に取り組んでおり、診断に有効なレントゲン写真撮影は当然ですが、患者様の検査に対する嫌悪感や不安感等の精神面でのケアも心がけています。

より良い撮影の為に勉強会にも余念がなく、月一度医師を交えた撮影検討会を開いたり、院外講習会にも積極的

に参加し、最先端の知識、技術の習得にも力を入れています。

レントゲン室内は広々としており、圧迫感がないので患者様にはリラックスした状態で検査を受けていただける様にしております。今後ますます患者様に良質な検査を提供出来る様日々精進してまいります。X線に関するご質問、ご相談等ございましたら、お気軽にお声をかけて下さい。



「お答えします！」

シリーズ診療Q&A ～教えてDr.～

内科 西村 香苗 医師

Q.糖尿病は痛みや苦痛がなく進行する病気と聞いていますが、病気に気付くサインはありますか？

A.かなり進行しても気付かない事が多いのですが、ちょっとした体調不良も見逃さない事が早期発見につながります。

糖尿病の代表的な特徴は「口渇、多飲、過食」です。すぐ喉が渇く、トイレが近い、食べても食べてもお腹がすく、身体がだるい、疲れやすいなどの症状が見られます。視力が衰えた、手足のしびれやけいれん、虫歯や歯槽膿漏がよく起こる、できものができやすい、性欲の減退、太っていた人が急にやせるといった症状も糖尿病の疑いがあります。

Q.糖尿病を放置しておくとのような症状が現れますか？

A.高血糖の状態が持続し全身にさまざまな合併症が現れたり、合併症を進行させてしまう恐れがあります。代表的な合併症には「網膜症」「腎症」「神経障害」がありますが、進行すると失明に至ったり透析療法が必要になったり、壊疽を起こし足を切断しなければいけないこともあります。

Q.予防は運動と食事のコントロールが必要と聞きますが、他には何かありますか？

A.糖尿病の発症にはライフスタイル(人間関係や仕事上のストレス、不規則な食事、栄養が偏りやすい外食、アルコールの飲みすぎ、清涼飲料水の飲みすぎ、食べ過ぎ、運動不足)などが影響します。生活習慣是正を心がけましょう。肥満に気をつけ、定期健診を受けましょう。

～病院からのお知らせ～

○外来担当医表をご希望の方は受付にて配布しております。ご利用ください。

○千葉市基本診査の受付終了が迫っています。早めの受診をお願いいたします。

○午後の外来診察時間は比較的余裕があります。

○保険証の確認にご協力お願い致します。

編集後記

明けましておめでとうございます。今年も皆様に満足していただける病院として職員一同努力してまいります。よろしくお願い致します。(M)

当院は開設60年を過ぎ、新たな歴史を重ねていきます。地域の皆様に「安心」が届けられる場であるようこれからも向上する病院でありたいです。(T)

昨年の流行語で「KY」(空気読めない)というものがあった。「君はKYだな」と使っている自分がKYである事もある。気をつけよう。今日(K)も良い人(Y)「KY」でありたい。。。 (匿名編集員)

発行者

医療法人 福生会
斎藤労災病院

千葉県千葉市中央区道場南1-12-7

電話 043(227)7437
FAX 043(202)5460

ホームページもご覧下さい

<http://www.saito-rosai.or.jp>

斎藤労災病院今昔



昭和32年の当院本館



現在のD棟と本館(E棟:写真右)